

道徳だより



テーマ：道徳の時間の授業改善

京都市道徳教育研究会
会長 前田 恵美
広報部



こんにちは、道徳教育研究会広報部から発行をしている道徳だよりです。こちらは、日々の道徳の授業に生かせる教育技術やアイデア、実践などのほか、研究会での活動や研修の様子をお伝えしていくものです。

「道徳の時間をもっと充実させたいな」「子どもの心にしっかり残る時間にしたいな」「道徳…むずかしい…」など、いろいろな思いをお持ちの先生方に、少しでも次の道徳の時間が楽しみになるような内容をお伝えしたいと考えています。

さて、道徳の時間が教科化されて5年目。年間35（1年生は34）時間で、教科書に則した道徳科の学習がどの学校でも根付いていると思います。

指導要領解説の今回の道徳的価値は…なるほど…低学年で〇〇はおさえているから…。

この教材、〇〇の要素（価値）もあるぞ。ねらいがぶれないようにするためには…。

よし、今回の価値への導入はこれを聞いて人間理解を深めておこう。

このめあてで1時間、子どもは自分事として自分を見つめるかな。

いつも後段で時間なくなる…。前段主発問まで15分！

ここで全員の意見を〇〇で表出させよう。（ネームプレート・短冊・ロイロの色カードなど）



道徳的価値への自覚（価値理解、人間理解、他者理解）を深めることが大事だから、この補助発問はいらなかな…。

主発問は葛藤場面？いや登場人物の道徳的実践後？今回の場合…。

今回の板書は時系列？いや葛藤場面の対比型？右下からの上昇カーブ？子どもの思考の手がかりにベストなのは…。

納得解までもっていくのに、この切り返しでどうだろう。

納得解の前に、めあてに対する共通解は全体でしっかりおさえて…だから、一旦めあてに戻って…。

道徳の授業改善の視点はまだまだあると思います。教室の子どもたちが、「よりよく生きるために」「自己の生き方について考える」道徳の時間となるよう、試行錯誤を続けていくことがとても大切だと思います。

一方で、これまでに読み物教材以外にも、多様な指導法が実践されてきました。ねらいを外さずに、子どもたちの心に残るアイデアをご紹介します。

道徳アンテナを立てる！心が動かされたものを授業で使う！

「なんかあったかい気持ちになるなあ」と思うものに出会ったら、それはもう道徳の時間に使える立派な教材です。絵本、歌、詩、街のポスター、CM、アニメ、漫画、ニュース…

私たちの身の回りには心を揺り動かすものがたくさんあります。少し“道徳アンテナ”を立てていると、「あっ、これ、使えるかも!」と思うものにきっと出会えるはずですよ。

中心教材として使うには難しくても、補助教材として導入や終末に使うと、子どもたちの心にぐっと印象づけたり、余韻を残したりできます。気をつける点は1つ。ねらいをぶれさせないことです。

教科書の教材もですが、心を動かすものにはたくさんの価値が含まれています。

先日、次のようなニュースがありました。「幼児の乗った車内に鍵を置いたまま、母親が誤ってドアをロックしてしまった。車の温度を下げるために母親と周りの住民で必死に水をかけた。すると近くの整備工場の方が接客中にも関わらず駆けつけ、解錠した。母親は費用支払いを申し出たが、整備士の方は「命が助かったのならそれでいい」と受け取らなかった。」

親切・思いやりでしょうか。感謝でしょうか。公共の精神でしょうか。生命尊重でしょうか。いや、全てです。だからこそ、どの場面で、どのように子どもたちに提示するかが重要になってきます。中心教材でしっかり「考え、議論」した上で、「終末はこれで子どもの心を動かせたら…」と思いながら教材研究をすると、とっても楽しいですよ。



「探求の対話」 p 4 c

「p4c」とは“philosophy for children”（子どものための哲学）の略で、「考え、議論する道徳」を目指して、近年、宮城県での実践を中心に広がりを見せている取組です。

p4cは子どもの問いから始めます。教師も含めて全員で輪になり、コミュニケーションボールと呼ばれる毛糸玉を受け渡ししながら対話を進めます。「ボールをもった人が話す」「相手を傷つけない」「簡単に結論付けない」「急がずにゆっくり考える」「先生も一緒に考える」「(必要に応じて)WRAITECを活用する」など、一定のメソッドがあります。

道徳の時間だけでなく、学活として位置付けるのもよいかもしれません。道徳であれば、教科書教材を踏まえた上で、さらに深めたい時などに複数時間で計画するといいかもかもしれません。オープンエンドではありますが、他者との対話を重ねつつ、自己内対話を深める取組ではないかと思えます。



WRAITEC:深く考えるためのツールキット

- W (What do you mean?) 意味。それってどういう意味かな？
- R (Reason) 理由。なぜそう思うの？
- A (Assumption) 前提。それって当たり前かな？
- I (Inference) 推論。もしも~とすると~ということ？
- T (True) 信憑性。それは本当かな？
- E (Example, Evidence) 例、根拠。例えば？証拠は？
- C (Counter Example) 反例。でも、こういうときもあるのでは？

参考文献

『道徳授業で大切なこと』 赤堀博行 2013 東洋館出版社

『先生が楽しい！道徳授業の作り方』 毛利豊和 2019 三晃書房

『子どもたちの未来を拓く 探求の対話 p4c』 p4c みやぎ・出版企画委員会 2017 東京書籍